

NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.41 令和6(2024)年3月

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：第19回名古屋大学ホームカミングデイ 名古屋大学の集い 名古屋フィルハーモニー交響楽団と混声合唱団名古屋大学コール・グランツェとの共演、

上段右：第19回名古屋大学ホームカミングデイ 名大 de 朝活 青空ヨガ 豊田講堂前庭にて、

下段左：活躍する会員たち 亀川亜希子さん クライオ電子顕微鏡リモート操作室にて、 下段右：支援事業報告 名大祭 ライトアップされたテラスゲート

Upper Left: The 19th Nagoya University Homecoming Day. Coming together at Nagoya University: The Nagoya Philharmonic Orchestra perform with Nagoya University's mixed choir, Chor Glanze;

Upper Right: The 19th Nagoya University Homecoming Day. Early morning activities at 'Meidai': Blue Sky Yoga in the garden in front of Toyoda Auditorium;

Bottom Left: NUAL People in Action. Kamegawa Akiko in the cryo-electron microscope remote operation room;

Bottom Right: NUAL Support Project report. The terrace gate lit up for the Meidaisai festival

Contents

特集 第19回ホームカミングデイ報告…………… 2
Report on the 19th Annual Homecoming Day

活躍する会員たち…………… 4
NUAL People in Action

同窓会ニュース…………… 8
NUAL News

事務局からのお知らせ…………… 12
From the NUAL Office

特集では、第19回ホームカミングデイの様子と同窓会関連行事について報告します。活躍する会員たちのコーナーでは、東京医科歯科大学の亀川さん、共同通信社の大倉さんにお話しいただきます。同窓会支援事業の報告も4件ご紹介します。

In our special features, we report on the 19th Nagoya University Homecoming Day celebrations, and bring you information about events relevant to NUAL. In NUAL People in Action, we hear from Dr. Kamegawa of Tokyo Medical and Dental University, and Ms. Okura, who now works at Kyodo News. We also take a look at the outcome of 4 NUAL Support Projects.

第19回ホームカミングデイ報告

Report on the 19th Annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会代表幹事
名古屋大学副総長
木村 彰吾



1 はじめに

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、第19回ホームカミングデイは対面形式を主体に、そしてコロナ禍で一般的になったオンラインのイベントを取り入れたハイブリッド形式で開催されました。

2 第19回ホームカミングデイ

昨年に引き続き、今年も10月21日のホームカミングデイ当日に向けて2つのプレ企画が開催されました。1つは9月9日開催の「めいだいきりあかふえ ～名古屋大学卒業生オンライン交流会～」です。リモートワークでお馴染みになった ZOOM のブレイクアウトルームの機能も活用し、オンラインながら充実した交流ができました。もう1つが10月13日開催の「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」です。こちらは杉山直総長の司会・進行により、名古屋大学学術奨励賞を受賞した博士課程の学生が各自の研究内容を3分間で紹介するコンテストです。ZOOM ウェビナーで研究報告を視聴した方の投票によりグランプリを決定し、ホームカミングデイ当日に表彰式とエキシビジョンを行うというものです。

10月21日のホームカミングデイ当日は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したということもあり、午前中は「名大 de 朝活」をテーマにして屋外でのアクティビティを実施しました。1



名大 de 朝活 総長と早朝ウォーキング 学内の説明をする総長と参加者

つが「青空ヨガ」です。教育学部卒業の齊藤いずみさんを講師に迎え、豊田講堂前のグリーンベルトに50名ほどが集まりヨガを行いました。もう1つは「総長と早朝ウォーキング」です。杉山総長の案内で東山キャンパス内を30分程度ウォーキングするものですが、参加者の皆様に大学の今の様子を感じていただける機会となりました。参加者からは「大学施設などの概要が分かりやすかったです。」「なかなかお会いすることのない総長から、直接大学内を案内していただき、気さくなお人柄に触れて楽しいひとときでした。」という声が寄せられ、大変好評でした。その後は、屋内での講演会となり、「名大アカデミックアワー ～健康再考～」と題し、医学系研究科の中村和弘教授と環境医学研究所の伊藤パティジャ綾香講師に健康にまつわるご講義をいただきました。

午後はホームカミングデイの最も重要なイベントである「名古屋大学の集い」です。杉山総長・柴田昌治全学同窓会会長よりご挨拶をいただき、代表幹事の木村より令和4年度の全学同窓会の活動についてご報告いたしました。

その後、国際交流貢献顕彰表彰式が執り行われました。



名古屋大学の集い 柴田会長挨拶



名大 de 朝活 名大アカデミックアワー講演会の様子



名古屋大学在外卒業生との交流会 集合写真

新型コロナウイルス感染症拡大により来日いただくことが叶わなかった、2021年度および2022年度の受賞者の方のご紹介に続いて、今年度受賞されたお三方の表彰式を行いました。そのうち2名は全学同窓会ラオス支部推薦のケオハヴォン・ブーンシューさん、全学同窓会米国支部推薦の岩浅邦彦支部長です。今年度受賞者の皆さまからはお一人ずつコメントをいただき、名古屋大学での留学経験を生かして活躍されている様子をお聞きし、大変喜ばしく思った次第です。

なお、従前はホームカミングデイ前日に国際交流貢献顕彰表彰を受けられる方をお招きしてレセプションを行っていましたが、コロナ禍により中断しておりました。コロナ禍が収束した今年は、「名古屋大学在外卒業生との交流会」として再開することになり、全学同窓会も共催させていただきました。海外から8名の卒業生とご家族が参加し、全学同窓会役員、大学関係者と交流を深めることができました。

国際交流貢献顕彰表彰式に引き続き、NU3MTの表彰式・



名古屋大学の集い 国際交流貢献顕彰表彰式

エキシビションが行われました。10月13日開催の「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」の視聴者投票によりグランプリを受賞された工学研究科の嶺颯太さんと、総長特別賞受賞者の工学研究科の仲井文明さんに賞状と賞金が授与され、お二方から3分間の研究発表をエキシビションという形で再現いただきました。

休憩を挟み、「名古屋大学の集い」は、名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートに移り、松井慶太氏の指揮による名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートをお届けしました。本来は2020年度のホームカミングデイにて公演いただく予定であった演目を今回そのまま演奏いただく形となりました。2曲目のブラームス「運命の歌」では、混声合唱団名古屋大学コール・グランツェの学生との共演が実現し、美しい歌声とオーケストラの音色とのコラボレーションを堪能させていただきました。

名古屋大学の集いには、豊田講堂での対面とアーカイブを合わせて3,300名ほどが参加されました。また、各学部のイベントに参加された方も合わせて、今年のホームカミングデイ全体の参加者はのべ1万人弱となりました。

3 全学同窓会評議員会について

ホームカミングデイ当日の全学同窓会評議員会は、対面形式で開催されました。審議事項は役員の交代、報告事項は、令和5年度の活動計画と活動報告等でした。全学同窓会の創立以来長く副会長をお務めになった丹羽宇一郎氏、岡田邦彦氏が顧問に就任され、新たに内山田竹志氏、中村利雄氏、村瀬幸雄氏が副会長に就任されました。評議員会の後に懇談会が開催され、名古屋大学の役員にも出席いただき、引き続き役員をお務めくださる方、新しく評議員になられた方との交流や意見交換ができました。

引き続き、皆様には全学同窓会への物心両面に渡るご支援を是非賜りますようお願い申し上げます。



名古屋大学の集い NU3MT エキシビション
グランプリを受賞された嶺颯太さんの研究紹介

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第41回は、創薬科学研究科で博士学位を取得後、東京医科歯科大学助教としてタンパク質の構造解析の分野でご活躍の亀川亜希子さん、文学部を卒業し共同通信社の記者としてご活躍の大倉たからさんにお話しいただきます。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. In this 41st installment, we speak to Dr. Kamegawa Akiko, who obtained her PhD from the Graduate School of Pharmaceutical Sciences and is now Assistant Professor at Tokyo Medical and Dental University, working in the field of protein structure analysis. We also hear from Ms. Okura Takara, who graduated from the School of Humanities before becoming a journalist for Kyodo News.

かめがわ あきこ
亀川 亜希子さん



■略歴

- 2014年 名古屋大学大学院創薬科学研究科基盤創薬学専攻 修士課程修了
- 2017年 名古屋大学大学院創薬科学研究科基盤創薬学専攻 博士課程修了
- 2017年～ 株式会社 CeSPIA 研究員
- 2019年～ 東京医科歯科大学高等研究院卓越研究部門細胞構造生理学研究室プロジェクト助教

[創薬科学研究科を目指した経緯]

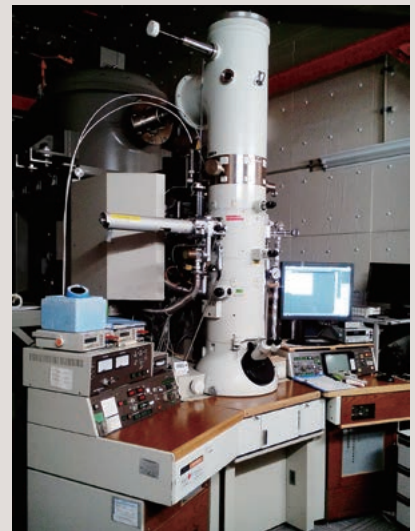
私は、大学時代は臨床検査学を専攻し、国家資格を取得後、臨床検査技師として従事しました。しかし、大学時代に研究補佐をした経験から研究にも興味を持っていたため一念発起で転職活動し、当時、京都大学理学部におられた藤吉好則教授の研究室で研究補佐をすることになりました。当然のことながら研究に関しては技術も能力も無く、一つ一つ基本から教えていただくことから始まりました。誰かの役に立ちたいというおこがましい気持ちはどこかに吹っ飛び、逆に皆さんの時間を使ってしまう申し訳ない気持ちでいっぱいだった記憶があります。それでも皆さんに助けていただきながら研究を続けていく中で、自分は目標に向かって努力することが比較的得意である反面、基礎が無いため応用力が乏しく研究を進めるには弱気な部分があることに気が付きました。研究に対する自信を深め今後も研究を続けていくためには、専門知識について基礎から学ぶ必要があると痛感しました。ちょうど私たちの研究が、「膜タンパク質の立体構造を分子レベルで明らかにする」ことに成功し、「立体構造を基に膜タンパク質に対する阻害剤を創る」という次のステージに移行しつつあるタイミングでもありました。

[大学院時代]

2012年4月、私は社会人生活を一旦中断し、名古屋大

学大学院創薬科学研究科創薬分子構造学講座で1期生として12年ぶりの学生生活を始めました。創薬科学研究科は、どうして病気になるのかを“知る”ことから、病気の原因について分子レベルで“探る”、さらには病気を治す候補となるシーズを“創る”などの、創薬の基礎研究を一連の流れとして学ぶことができる大学院です。

私は研究補佐時代から、クライオ電子顕微鏡を用いたタンパク質の高分解能構造解析、特に水チャネルアクアポリン (AQP) の構造と機能について研究を続けています。大学院では、脳に多く発現しているアクアポリン4 (AQP4) に対する阻害剤開発を研究課題にしました。AQP4は脳アストロサイトや視床下部に多く発現している膜タンパク質で、脳内のイオンや水分子の制御を担って



名古屋大学で使用していたクライオ電子顕微鏡



現在のクライオ電子顕微鏡

恒常性維持に関わっています。AQP4は脳浮腫や視神経脊髄炎など、さまざまな疾患との関連が明らかになっており、AQP4を直接阻害する化合物が求められています。また、近年ではアルツハイマー病をはじめとする認知症疾患の原因となるアミロイドβタンパク質やタウタンパク質などの老廃物を脳内から排出する経路としてAQP4が関与しているという報告もあり、AQP4の機能亢進を目指した創薬研究も求められています。博士課程では、実際に我々の研究室で解析したAQP4の立体構造を基に、水の通り道を阻害する化合物の予測・設計や合成を、創薬有機化学講座の横島聡教授に直接ご相談差し上げ、共同研究として実際に数十もの化合物を合成していただきました。自分たちの知識や経験だけでは前に進めない部分があっても、近くにいる専門分野の先生に困っていることを相談でき、問題を共有して知識を出し合ってくださいることで、スピード感を持って研究を行うことができました。残念ながら博士課程の間に水透過を阻害する化合物を開発することはできませんでしたが、このテーマは今も引き続き研究を進めております。



株式会社 CeSPIA のメンバー

[研究活動とこれから]

生物学や医学・薬学分野において、病気の原因となるタンパク質の立体構造情報は非常に重要です。Structure-Guided Drug Development (SGDD) は、標的タンパク質（鍵穴）の立体構造を基に、疾患における作用点にピッタリな薬（鍵）を設計する創薬基盤技術の一つです。SGDDによって標的分子に特異的に結合する分子構造の化合物を設計することにより、副作用を最小限に抑え高い薬効を持つ薬の開発が期待できます。これは、我々のような基礎研究がそのまま産業化に繋がる可能性を示し、創薬にかかる膨大な時間やコストの削減も期待できます。近年では、製薬企業も自社のみで新薬開発を行うのではなく、外部の知識・技術・アイデアを利用して研究開発を行うオープン・イノベーションの波が起こっています。ここで、我々の持つ“構造解析の力”を速やかに創薬に活用していくために、藤吉教授は2017年4月、日本電子株式会社との共同出資によって株式会社 CeSPIA というビジネスベンチャーを立ち上げました。私は大学院を卒業後 CeSPIA の社員としても東京医科歯科大学高等研究院卓越研究部門細胞構造生理学研究室のプロジェクト助教としても、構造創薬に関わる研究を進めております。

クライオ電子顕微鏡を用いたタンパク質の高分解能構造解析技術が新薬開発に活用できる手法の一つとして急速に発展している今、私たちが進めている研究が社会に還元される可能性を感じながら、日々課題に取り組んでいます。



<https://www.cespia.co.jp>

おくら
大倉 たからさん



■略歴

2015年 名古屋大学文学部卒業
2015年 共同通信社入社
2015～2022年 宮崎支局、福岡支社、岐阜支局で勤務
2022～現在 東京本社文化部

私は今、共同通信社文化部の記者としてクラシック音楽を担当しています。昨夏、「スター・ウォーズ」や「ハリー・ポッター」など数々の映画音楽を手がけた91歳の巨匠ジョン・ウィリアムズさんがオーケストラを指揮した来日公演を、憧れの山田洋次監督と一緒に鑑賞しました。そして終演後、日本映画界の第一人者である山田監督に、スター・ウォーズを初めて見た時の思い出や映画「男はつらいよ」の音楽のこだわりを聞いて記事にまとめました。このぜいたくな大仕事を成し遂げられたのは、名古屋大学文学部日本史学研究室のある日のできごとが始まりです…。

研究室でのできごと

私は、小学校の修学旅行で奈良県明日香村の飛鳥寺

を訪れて以来、蘇我一族が好きで日本史学研究室に入りました。でも授業では、くずし字に大苦戦。先輩や同級生、そして後輩にも助けをもらいながら課題に取り組んでいました。そんな時、授業のフィールドワークで奈良を訪れ、夕食の時間にひょんなことから映画「男はつらいよ」の話になりました。同行した羽賀祥二先生が寅さん好きで、古尾谷知浩先生の地元は寅さんと同じ、葛飾柴又だったからです。私は祖母と「男はつらいよ」を見て育ち、不器用だけど粋な寅さんと、それをとりまく人たちの人生が詰まったこの作品が大好きでした。いつもは発言しないのに嬉々として話の輪に加わりました。ぽかんとする他の学生たちに羽賀先生は、「人間の本質を学ぶ文学部なのに、みんなは寅さんを見ていないの?」と一言。

文学部は文学を研究するところではなく、人間の本質を探究する場所、というフレーズは、学部長やいろいろな先生たちから事あるごとに伝えられていた文学部の指針です。その時、羽賀先生は「人間とは何かは『男はつらいよ』を見ればだいたい分かる」とも言って笑っていました。

宴席での話ですが、私はこの言葉にとっても勇気づけられました。それから授業についていけないことがあっても「大丈夫、私は寅さんを見ている!」と自分に言い聞かせ、「奈良時代の人たちは何を思ってこんな儀式をしたのだろう」「どんな喜怒哀楽があったのだろう」と思いをはせながら取り組みました。寅さん愛もさらに加熱。共同通信社の最終面接でも話したくらいです。



ジョン・ウィリアムズさんの公演を見た山田洋次監督へのインタビューは、全国の地方紙に掲載された。

寅さんが支えた被災地

入社して最初の勤務地は九州の宮崎。2016年の熊本地震の被災地には何度も通いました。阿蘇大橋で亡くなった息子のために毎日おにぎりを握り、谷に投げ入れ続けたお母さんの姿は今も目に焼き付いています。そんな取材が続く中、ふと、阿蘇が舞台の第21作「男はつらいよ 寅次郎わが道をゆく」を思い出しました。ロケ地になった旅館は無事だろうか。地震発生から3カ月後の夏休み、南小国町の旅館「大朗館」を訪ねることに。きっと閑古鳥が鳴いているに違いない。記事を書いて応援しようと思気込んでいた私は驚きました。旅館は賑わっていたのです。主人から話を聞くと、地震で天井が壊れ、宿泊者ゼロの日が続いたけれど、しばらくするとニュースを見た各地の寅さんファンが続々と訪れたといいます。旅館をたたむ覚悟もしたという主人は涙を流して喜んでいました。

2017年の九州北部豪雨。福岡支社にいた私は、福岡県朝倉市の土砂に飲み込まれた集落を取材していました。命からがら避難した高齢の男性が土砂やがれきで変わり果てた故郷への思いを語り始めます。刑務所に入っていた頃、本当は高倉健が好きなのに、見せてもらえるのは「男はつらいよ」ばかり。しょうがなく眺めていると、故郷の朝倉が出てきた。こんなに美しかったのかと感動し、出所後はまじめに暮らしていると照れくさそうに教えてくれました。

私は聞いた話をまとめ、寅さんと被災地というテーマで特集を書こうと決意。ダメ元で山田監督にも取材を申し込むと、インタビューできることになりました。監督は戦後の苦労をたどりながら語ってくれました。「つらい思いをしてない人は『頑張って』と言うが、それでは元気にならない。寅さんが今、被災地を訪れたら『大変だったね。ご苦労さん』と声を掛け、その次になにか面白いことを言って笑わせるだろうね」

昨夏の大仕事

それから3年後、東京本社で文化部に異動し、クラシック音楽担当に。世界的指揮者の小澤征爾さんが総監督を務める音楽祭のためにウィリアムズさんが来日するとい

うことで、小澤さんと親交が深い山田監督に取材をお願いすると、快く引き受けてくれました。「ぜいたくな気持ちになる映画音楽の魅力」を聞かせてくれた監督は、帰り際、同い年のウィリアムズさんが指揮する姿を見て「悔しい気持ちになった。もっと僕も頑張らないと」とこっそりつぶやき、人間味あふれる闘争心も見せてくれました。

人間とは何かを知る瞬間

被災地だけでなく、さまざまな場面で懸命に生きる人たちの大切なものに触れてきました。市街地から3時間かかる山奥に正倉院とうり二つの建物をつくり、過疎化が進む地域をなんとかしようとする元村長。大好きなシジミをペットにしようと、育て方を研究するおじいちゃん。話を聞くと、ひたむきな姿勢がかっこよく、これはどうしてもみんなに知ってもらいたいと気合いを入れて記事にしました。即物的に捉えれば、被災地での被害とは直接関係ない話も、正倉院やシジミの話も、何の役に立つのだと感じる人はいるかもしれません。でも、私はこういった人々の姿にこそ「人間とは何か」を知ることができる大切な瞬間があると信じています。文学部でそう習いました。仕事で行き詰まった時はいつも、「私は、人間とは何かを探求する文学部、の出身」と胸を張るようにしています。



東京異動後、真っ先に訪ねた「葛飾柴又寅さん記念館」で

同窓会ニュース NUAL News

大学支援事業目録贈呈

令和5年11月10日(金)、令和5年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業(令和5年度第1回)採択に目録が贈呈されました。

今回は、8件の応募から、表の4件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会HPでも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会HPで公開しています。

所属・職名等	申請者	事業名
学生支援本部 心の発達支援研究実践センター 准教授	杉岡 正典	名大ピア・サポート活動における障害のある学生の理解促進と大学間交流
医学系研究科総合保健学専攻看護学コース 博士前期課程2年	八木 琴美	名古屋大学助産学同窓会セミナー・交流会「助産師の技をつなぐ」
環境学研究科・国際化推進教員	CHUN Sohyun	海外同窓生と在学生とのグローバルリンクの強化
人文学研究科・研究科長	周藤 芳幸	文学部創立75周年記念講演会・シンポジウム



授与式の様子



集合写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動(学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等)を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

「国際開発研究科サミット2021」の開催

申請代表者：山形英郎(大学院国際開発研究科長・教授)

大学院国際開発研究科創設三十周年記念事業として、2022年2月5日～10日までの6日間のオンライン学術セッション(20セッション)および国際シンポジウムが開催されました。開催費の一部を全学同窓会から支援をいただきました。

「ポスト・コロナ時代の国際開発研究と教育：新たな機会と挑戦」と題する国際シンポジウムについては、開会時に松尾総長が本学を代表して歓迎の辞を述べた後、柳孝文部科学省文部科学審議官、岡田恵子外務省国際協力局審議官、北岡伸一国際協力機構理事長および遠藤和重国際連合地域開発センター所長らご来賓から本研究科創設30周年を祝

うご挨拶をいただきました。

基調講演では、マサチューセッツ工科大学都市研究・地域計画研究科教授のビシュワプリヤ・サンヤル博士に、“Development: Which Way Now?”というタイトルで、また、サセックス大学開発学研究所長のメリッサ・リーチ博士に“Post-pandemic Transformations: Re-casting Development in an Uncertain World”というタイトルで講演いただきました。その後、メリッサ・リーチ博士と、ンブリ・チャールス・ボリコ博士(国連食糧農業機関(FAO)駐マダガスカル・コモロ・モーリシャス・セーシェル連絡事務所長、1996年修了)、リザル・アフアンディ・ルクマン博士(インドネシア経済調整担当大臣上級顧問、2000年修了)、ノルバート・パラノビチ博士(駐日ハンガリー特命全権大使、2008年修了)の3名の本研

究科修了生と、本研究科教員の伊東早苗教授、岡田勇准教授の合計5名が、パネルディスカッションを行いました。

オンライン学術セッションにおいて、本研究科教員、大学院生、修了生、学术交流協定校の教員および大学院生、一般研究者が研究発表を行いました。699人がこれらのセッションに主催者、発表者、もしくは参加者として関わっています。国際シンポジウムの参加者は46か国から284名です。これらの企画では、オンラインライブ配信機能を通して、名古屋大学の海外拠点を含めて、国内外の参加者がいました。こうしたオンライン学術セッション、基調講演やパネルディスカッションを含む国際シンポジウムの開催は、ポスト・コロナ時代の国際開発学の研究と教育の在り方や日本が期待される貢献や役割について検討する重要な機会となり、有益な成果をもたらすことが期待できます。また、1991年の設立以来の研究科の歩みと成果を振り返り、国内外の国際開発協力における本研究科の役割を再確認するとともに、関係機関との連携を強化する機会にもなりました。



パネルディスカッションの様子

名古屋大学法政国際教育協力研究センター(CALE)設立20周年記念シンポジウム

申請代表者：牧野絵美
(法政国際教育協力研究センター(CALE)・副センター長／講師)

法政国際教育協力研究センター(CALE)は、法分野の国際協力を推進するセンターとして、文部科学省令にもとづき、2002年に設立され、本年で設立20周年を迎えました。設立20周年を記念して、2022年9月20日(火)、21日(水)に式典・シンポジウムを開催し、そのひとつのセッションを、修了留学生による研究報告としました。

法学研究科は、1999年に英語のみで修士号及び博士号を取得することができる英語コースを設置し、修了留学生は、大臣・副大臣等各国の国家中枢人材として活躍しています。

記念式典では、ダン・ホアン・オアイン・ベトナム司法副大臣に、同窓生を代表し、ビデオメッセージを頂戴しました。2005年以降には、アジア各国に「日本法教育研究センター」を設置し、日本語による法学教育を開始し、より高度な専門家の育成に従事しています。すでに英語コース及び日本語コースから、600名を超える修了生を輩出しています。

20周年記念シンポジウム開催にあたり、修了留学生を対象として報告者の募集をし、7ヶ国(ウズベキスタン、カンボジア、タイ、中国、ブルガリア、ベトナム、モンゴル)より10名の報告者を選抜しました。選抜にあたっては、ウズベキスタン及びベトナムの修了留学生にも選考委員に加わっていただきました。10名の報告者のうち6名を名古屋に招聘し、対面とオンラインのハイブリッド形式でシンポジウムを開催しました。3名分の旅費を本事業にご助成いただき、修了留学生が名古屋大学に再び訪問する貴重な機会となり、感謝しております。

参加した報告者のバックグラウンドは、裁判官、中央省庁職員、大学教員など様々で、分野も憲法、行政法、労働法、会社法、競争法、投資法、国際経済法など多岐にわたりました。3つのサブセッションに分け、元指導教授を含む法学研究科教員、修了留学生、現役学生、国内外の研究者等、様々な方にご参加いただき、比較研究の交流の場となりました。セッション修了後は、オンライン同窓会／交流会も開催し、元指導教授や旧友と親しく懇談する場もありました。プログラムの詳細は、以下よりご覧下さい。

<https://cale.law.nagoya-u.ac.jp/event/cale-20th-anniversary>

報告者には、CALEの紀要であるAsian Law Bulletinへの寄稿の機会も設け、修了留学生と継続的に研究交流をしていく予定です。今回、このような取り組みを初めて実施しましたが、大変好評でした。修了留学生との研究交流を強化していくことは重要であり、来年度以降も同様のイベントを開催していきたいと考えています。



セッションの様子

第62回名大祭

申請代表者：日比野光佑

(文学部2年(第62回名大祭実行委員会 委員長/申請当時))

報告者：竹内丈士

(工学部化学生命工学科3年(第63回名大祭実行委員会 総務局長))

名大祭が、学生自治の祭典として1960年に第1回が開催されて以来、今年で第63回目を迎えました。やむなく中止となりました第61回、大幅に規模を縮小しました第62回を経て、今回はご来場いただける人数の制限をはじめとする感染症対策や、模擬店企画などの一部企画の縮小を伴いながらも、おおよそ例年通りの規模での開催となりました。長い歴史の中で名大祭の様相は少しずつ変化してまいりましたが、3年ぶりの今回の開催では、以前の姿を思い出していただくとともに、新時代の名大祭の第一歩を、来場者の方、参加者の方にお伝えしたいという思いで準備をしてまいりました。そして、その復活と革新の象徴となるものが、豊田講堂前庭に設置させていただきました、テラスゲートです。東山キャンパスを東西に貫く緑地帯に模擬店ブースや屋外企画が立ち並ぶグリーンベルトと、名大祭の中心会場として賑わい溢れる豊田講堂周辺をつなぐ位置に、名大祭にお越しの方々を迎え入れる「門」としての役割を果たしていたと思います。地下鉄の出入口から出て右手を見渡すと、豊田講堂とともに、「63rd 名大祭」と大きく掲げたゲートが目をつけたのではないのでしょうか。

実際、テラスゲートでは、随一のフォトジェニックさを誇る記念撮影スポットとして、“映え”要素を遺憾なく発揮していました。また、名大祭ホームページやSNSでも、名大祭のシンボルとして、広報にも一役買っています。

当初、テラスゲートの設置に当たっては、イントランスに関する法規制の改正に伴う設置委託費用の増大から、設置の断念を迫られておりました。しかし、この度、全学同窓会のご支援を賜り、安全にも配慮しつつ、豊田講堂前庭を、そして、名大祭全体を華やかに彩ることができました。



名大祭テーマを掲揚するテラスゲート

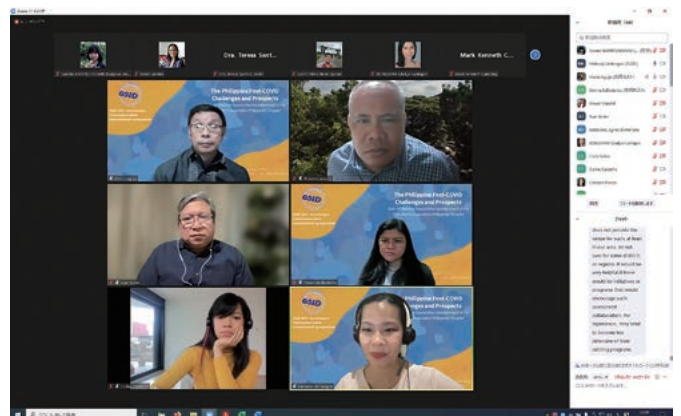
なお、本事業につきましては、第62回名大祭の対面による実施が中止となりましたので、第63回名大祭で実施させていただきます。

大学院国際開発研究科同窓会フィリピン支部キックオフ記念ワークショップの開催

申請代表者：岡田亜弥 (大学院国際開発研究科長・教授)

1991年に設立された大学院国際開発研究科は、2021年に研究科創設30周年を迎えました。この30年の間、多数の外国人留学生を受け入れ、97カ国・地域から1,293名の外国人修了生を輩出してきました(2022年3月現在)。そのなかでも、フィリピンからの修了生は64名にのぼっています。多くはフィリピン政府機関、研究機関、外国政府援助機関、国際NGOに勤務しており、フィリピンの国家開発に携わっています。彼らのネットワークをより強固にそして同窓生間の活動を促すために、大学院国際開発研究科同窓会フィリピン支部を立ち上げる準備として、全学同窓会から支援を得て、キックオフ記念ワークショップを開催しました。

当初、ハイブリッド形式での開催を予定していましたが、コロナ禍のため開催時期を変更し、オンラインにて2022年2月7日(月)に開催しました。ワークショップのテーマは『ポストコロナにおけるフィリピンの課題と展望(The Philippines Post-COVID Challenges and Prospects)』です。パネリストは本研究科フィリピン人修了生5名、そして司会者は同2名体制で実施しました。具体的にはパネリストには、マリオ・ホヨ・アグハ博士(Mario Joyo AGUJA, 2001年修了)、ロベルト・レイエス・アコスタ博士(Robert Reyes ACOSTA, 2002年修了)、コリン・エッシャー・バクサーパ・カーデノ氏(Coline Esther Bacsarpa CARDENO, 2019年修了)、マリー・ドナ・バレステロス博士(Marie Donna BALLESTEROS, 2021年修了)、



オンラインで開催されたワークショップの様子

およびアセール・バティスタ・ハビエル博士 (Aser Bautista JAVIER, 2002年修了) が参加しました。司会はメリンダ・ゲイル・リムレンコ氏 (Melinda Gayle Lingan LIMLENGCO, 2018年修了) およびソラットレ・マリセル・ポブレテ氏 (Maricel Poblete SOLATRE, 2016年修了) が務め、参加者は約60名に及びました。参加者の多くは本研究科の修了生でした。

このワークショップを通じて、修了生は研究科とのネットワークを構築するとともに、フィリピン支部の中心メンバーは、ほかのフィリピン人修了生と連携してフェイスブックグループを形成しました。これにより、異なる時代に修了した修了生たちが交流し、知識や経験を共有するプラットフォームが生まれ、同窓会の発展に寄与することが期待されます。

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

- 1) 東山会関東支部 (第16回東山会関東支部総会)
例年通り総会、特別講演そして懇親会を予定しています。
日 程：2024年5月25日 13:00～
場 所：学士会館
連絡先：支部長 平澤一範
E-mail: allex-sai2@ezweb.ne.jp
- 2) 名大鏡友会東日本支部 令和6年度総会
令和6年度総会を下記の通り開催予定です。万障繰り合わせの上、ご参集ください。
開催日時：令和6年6月1日 (土) 13時～ (受付開始12時30分)
開催場所：東京都千代田区 学士会館
総会後の講演会：生命分子工学専攻 馬場嘉信教授
令和5年講演会が台風の影響で中止となったため改めて馬場教授をお願いしています。
総会、講演会後に懇親会を予定しておりますが、詳細は別途ご案内いたします。
主 催：名大鏡友会東日本支部
<https://www.chembio.nagoya-u.ac.jp/kyoyu-kai/shibu.html>

3) 東京キタン会 定時総会

例年通り、講演会と懇親会を予定しております。
日 時：令和6年6月22日 (土) 11:00～
場 所：都内会場
連絡先：E-mail: info@tokyo-kitankai.com

○岐阜支部

岐阜支部2024年度総会・講演会・交流会

*2024年度総会・講演会・交流会を以下の要領で開催します。
詳細は追ってHP等でお知らせしますので、ご予約下さいませよう。

日 時：2024年6月30日 (日)
場 所：じゅうろくプラザ大会議室 (JR 岐阜駅隣)
<http://plaza.gifu.jp/>
14:30～15:00 総会
15:15～16:45 講演会「岐阜の自然を語る」
講 師：川上紳一 (岐阜聖徳学園大学教授)「惑星探査と岐阜の自然」
土田浩治 (岐阜大学教授)「進入生物の辿った道を探る」
17:00～19:00 交流会 (プラザ1F ラ・ローゼ・プロヴァンス)

(岐阜支部事務局: 2019nugaa@gmail.com)

○遠州会

今回は、5年ぶりの名大遠州会第25回同窓会・第13回総会となります。(前回は2019年6月開催)なお、今回、会場は変更しております。

名大遠州会第25回同窓会・第13回総会

日 時：2024年6月1日 (土) 18:00～
場 所：ホテルクラウンパレス浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail: enshuzsk@yahoo.co.jp

○関西支部

関西支部第15回総会・懇親会

関西支部では、下記の日程で第15回総会・懇親会を開催いたします。大学から総長、代表幹事にもご出席いただきます。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちいたしております。

開催日時：令和6年5月18日 (土) 14時から19時
場 所：中央電気倶楽部 大阪市北区堂島浜2丁目1番25号
TEL: 06-6345-6351

ご 挨拶：藤井真澄 (名古屋大学全学同窓会関西支部長)

* 総 会 (5階大ホール)

木村彰吾 (名古屋大学全学同窓会代表幹事)

題目：全学同窓会活動報告

杉山直 (名古屋大学総長) 題目：未定

* 講演会 (5階大ホール)

講演者：渡邊誠一郎 (名古屋大学大学院環境学研究科教授)

題目：小惑星探査機はやぶさ2のミッション・経緯と成果 (仮題)

* 懇親会 (3階大食堂) 立食形式 (予定)

連 絡 先：関西支部事務局長：脇田喜智夫

(御所南法律事務所 TEL: 075-253-0777)

Email: office@goshominami.jp

関西在住会員の皆さまには、追って講演内容、参加費等の詳細を、個別にご案内いたします。また、全学同窓会ホームページでもお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先 : 名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00~16:00) sotugyoumeibo@t.mail.nagoya-u.ac.jp

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**20,000名**を超えています。



年会費永年無料! 家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる! 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEBからのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00~17:00)

● カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

● カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

支援事業報告では、久々に例年通りの開催となった名大祭や、ポストコロナを見据えた活動等についてご報告いただきました。コロナ後の同窓会支援事業も活発になり、順次ご報告の掲載を予定しております。こちらもご期待ください。同窓生の皆様には本同窓会へのますますのご支援を頂けますようどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

NUALNewsletter

No.41 令和6(2024)年3月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@t.mail.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会

